慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	ヘンリー・ H・ ウェア ソヴイエット国内商業における配給費
Sub Title	Henry H. Ware, "Cost of distribution in Soviet domestic trade." (The journal of marketing, July 1950. vol. XV, no. 1)
Author	片岡, 一郎
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1952
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.45, No.12 (1952. 12) ,p.881(67)- 884(70)
JaLC DOI	10.14991/001.19521201-0067
Abstract	
Notes	論文紹介
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19521201-0067

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

なく、ベンサムやベルヌイの一應主張した處のものであり、近代經濟學の出發點は、寧ろ、社會哲學からの開放という點に求めらるべきものである。と說かれている。シュタルクは、而して此の轉換を、必ずしも進步とは認め度くないと言う。現に、マーシャル以來のケムブリッヂ學派の發展は、再び、新しい方法によつて此の問題を處理しようとする動きを見せているではないか。ロックやライプニッツの精神は、社會科學の正しい傳統として受繼がなければならない。と彼は論ずるのである。頭初にも書いた通り、彼の〝理解〟的態度は諒解されるけれども、此の三論文は、一書の材料としては、何と言つても、バランスを失している。三論文は、夫々の項に二つの對立傾向を含ませつつも、㈠の時代が、㈡、㈢の二傾向によつて分裂し、思想性と論理性が分離してゆくと云う、より大なる意味での分裂を把握しようとしたものであるが、その意味でもう一層論述のバランスをとり、更に、後書きに見られた著者の問題意識に從つて、其の後の近代經濟學の發展、特に厚生經濟學的思想、一方に於ては、マルクシズムの抬頭と、その勞働價値說の社會學的意義―例えばマルクス價値論のリカアド的でない面の意味―斯ういう諸點が論ぜられて、一つの一貫した問題史的思想史の著述が成されてゆく過程に、之を組入れて行く態勢が整えられてゆく事を、我々は、心から待望するものである。思想と論理性の問題についても又自然主義と理想主義の問題についても、其の時には一層明瞭な觀念が形成され得る事であろう。尙、シュタルクが主として利用した諸著の主なるものを擧げておこう。（彼は、英譯本の利用等、嚴密に原典に據つていない場合もある。）

㈠ John Locke (1632—1704)
An Essay concerning Human Understanding, 1689—90
Two Treatises of Government, 1690.
Gottfried Wilhelm Leibniz (1646—1716)
Théodicée, 1710.
Monadologie, 1714. 其の他。

㈡ Thomas Hodgskin (1787—1869)
Labour Defended against the Claims of Capital, 1825
Popular Political Economy, 1827.
The Natural and Artificial-Rights of Property Contrasted, 1832. 其の他。
William Thompson (1785—1833)
An Inquiry into the principles of the Distribution of Wealth most conductive to Human Happiness, applied to the newly proposed System of Voluntary Equality of Wealth, 1824,
Labour Rewarded, 1827. 其の他。

㈢ Hermann Heinrich Gossen (1810—58)
Entwickelung der Gesetz des menschlichen Verkehrs, und der daraus fliessenden Regeln für menschliches Handeln, 1853.
Richard Jennings (1814—1891)
Natural Elements of Political Economy, 1855. 以上。

論文紹介

ヘンリー・H・ウェア
ソヴイエット國內商業における配給費
"Cost of Distribution in Soviet Domestic Trade"
By Henry H. Ware
(The Journal of Marketing, July 1950 Vol. XV, No. 1)

所謂商業學の發達が配給能率の增進をその中心的課題として展開せられて來たことは此の學問の强い技術論への偏向の上に見られるが、かかる配給能率測定の一指標として吾々は配給費を問題とする。しかしながら配給が消費者滿足の極大化にその目標を置くものであるとするならば配給費の絕對額それ自體は決して配給能率の指標たりうるものではない。ソヴイエットの經濟學者は計畫的配給の資本主義的配給に對する優越點としてソヴイエットの配給費が資本主義諸國家のそれの僅かに三分の一乃至四分の一に過ないことを强調しようとする。がしかしそれを直ちに配給能率の高さを物語るものとして受取ることは出來ない。むしろ吾々としてはかかるソヴイエットの配給費が果して何の程度まで消費者の滿足を實現しているか、此の點の吟味を進めることが第一の課題でなければならない。ウェア教授の本論文における意圖も實はかかる觀點から配給費に關するソヴイエットの資料の吟味におかれている。

ソヴイエット當局の發表によれば、新經濟政策期における配給費は小賣價格の二〇％餘であつたが、一九三二年には一二・五％にそして更に一九四〇年には一〇％を僅かに上廻る程度にまで減少せしめられた。しかし大戰に入るや切符配給制度が導入せられ、それに伴つて販賣額は減少し、且つ重要戰略產業特に工業企業に the Workers Supply Department が設立せられ、その販路が著るしく狹められ、取扱商品の種類も極端に減少し正常な經營の維持が困難となりために配給費は增大の傾向をたどつた。此の傾向は一九四七年の切符配給制度の廢止後もなお當分の間は續いたが、かかる傾向を刺戟した原因の主たるものとして商品廻轉率の低下が指摘されなければならない。例えば食料品（パンを除く）の配給に必要な廻轉時間は一九四〇年には一三・四日であつたが一九四五年には二一・四日にまで增加し、工業製品については夫々四一・四日から六一・三日にまで增大している。しかしながらかかる配給費の增大があつたとしても、それは資本主義諸國家のそれに比して未だ著るしく低位に維持せられたことは事實である。しかしながら經濟環境を全く異にする資本主義國家の配給費との比較に際しては前以つて數字上の若干の修正を行わなければならない。

その修正點の第一としてソヴィエットの小賣價格には取引稅が包含せられており、その額は大凡そ小賣價格の五〇％と推定せられる。從つてもし小賣商店の賣上金高が取引稅の附加によつて人爲的に增大させられるとすれば、賣上高に對する配給費の比率はそれに比例して低下するであろうし、且つそれを資本

主義的な配給費とより適當に一致させるためには、この比率は倍加されねばならない。第二には政府により商業に供給せられる補助金に關してである。例えば「倉庫・店舗その他の資本設備新設の費用は殆んど國家の會計から補助金の形式で償われ」配給費の構成要素とはならないし、亦地代、光熱費に關しても資本主義諸國家のそれらとは比較にならない僅少な額が支拂われているにすぎず、廣告費についてもそれは全配給費の僅かに〇・五%に過ぎない。第三には「財貨のサイズ、スタイル、色合等を限定し、商標を制限し、サーヴイスを避け競爭的廣告を出來るだけ少くすることにより、非生産的な商業に投資さるべき資本の額を極小化し、且つ商業に雇傭さるべき勞働量の節約」をはかろうとしている。このことと資本主義的配給の相異は資本主義諸國家の經濟においては「消費すべき十分の金をもつている顧客の消費者滿足を極大化しようとする」見地から配給費の額を決定しようとするに對し、ソヴイエットにおいては配給費の計畫者は、如何なる顧客にとつても入手出來るような價格を設定しようとする見地からその範圍内に配給費を出來るだけ小さく押えて行こうとする努力の相異である。これを要するに「ソヴイエットは推進せしめつつある産業革命の發展と見合いつつ消費者財の生産及び配給の全組織を根本的には大衆の最も基本的な必要にこたえるべく」その方向に導きつつあるのであり決してそれ以上のものではありえないことが配給費の質的比較をなすに當つて注意さるべきである。

又ソヴイエット當局はその商業組織の優越性を誇示する一つの根據として商業勞働に從事する勞働力の僅少を擧げている。商業に從事する勞働が全勞働力中の僅かに二・五%に當る二五〇萬と云う數字はアメリカの一二%に當る七五〇萬に比して著るしく僅少と云えよう。しかし「既に高い生活水準を享有しつつある進歩した工業國においては工場及び農場は人口の大なる割合の勞働を必要としない」ものでありむしろアメリカにおいては「各種のサーヴイス及び商業部門が人口のより大なる部分を雇傭する事を期待する」のである。從つて此處でも商業に從事する人口の割合それ自體は配給能率の判定の上に何等積極的意義をもつものではないとしなければならない。吾々がソヴイエットの低い生活水準を考慮して推測するならば合衆國における賣子一人當りの販賣高は彼の國のそれをはるかに上廻るとさえ思われる。亦當局が誇る商品廻轉率の速度についても同樣のことが言えるであろう。食料品はもとより工業製品も概して消費者需要が先走つて供給力をはるかに超えているが、それは流通過程に滯溜する時間を縮少し、「政府のためには資本を節約し、消費のための生産と云う社會主義の宣傳と手を結び合うかもしれない」が、消費者滿足が此處においても犧牲にせられていることに注目しなければならない。又かかる供給力の不足は商店の財貨獲得を困難ならしめ、配給能率を阻害するであろうしその當然の歸結として顧客及び顧客の需要は無視されざるをえないであろう。又ソヴイエットにおける價格は豫め決定せられ、その價格において配給せられるのであるが、かかる機構が意圖するところは消費者をたとえそれが實際に要した費用であろうともそのために强制せられる法外な價格から護ることにあると當局者は說明するが、しかし國家的計畫經濟の下においては「生産及び配給費における節約からえられた利益は自動的にも間接的にも消費者の利益」とはならず少くともその計畫された經濟期間の間はそうであることを當局者は見逃している。

次いでウェア教授はソヴイエット配給費の個々の吟味に入るがその構成は一九四〇及び五〇兩年度に關して政府によつて發表せられた資料に明らかである。

ソヴイエット配給費の構成（一九四〇及一九四七年）

費用項目	一九四〇年	一九四七年
勞働費	三八・二	三七・三
運搬費	二五・二	二一・五
地代・修繕費・維持費	一四・〇	一三・六
貯藏・調整・格付・荷造	三・五	二・八
商品損耗費	四・二	六・二
銀行信用費	二・五	五・三
管理・經營その他事務費	一二・四	一三・五
	一〇〇・〇	一〇〇・〇

右の表に明らかな如く配給費中最大を占めるものは勞働費用である。特に注意さるべきは複雜な配給計畫に伴う多數の非販賣員の存在が此の費用の比重を大きくしていることである。亦これは次の運搬費とも關聯するがソヴイエットの配給機關が「彼の勞働時間の殆んど四分の三を財貨の供給所、停車場、倉庫等から商店の間を馬車やトラックにのつて往復する傭人をもつのが普通である」。工業製品の多くは「せいぜい石の敷いてある道路」を五〇―六〇マイルも馬車で運搬しなければ財貨を店頭に並べることが出來ないとされているが、かかる資本主義社會にはみられぬ勞働のための費用が勞働費の割合を著るしく大ならしめる一つの理由である。次に運搬費に關しては計畫がかえつてスムースな荷動きを阻害し、荷の積替をいたづらに多くし、輸送手段の不完全さ並びにその利用の不十分配達の不圓滑と相俟つて運搬費を大ならしめている。例えば配達については巡廻配達の行われているのはモスクワ、レニングラード、キエッの三都におけるパンに限られておりその他の都市においては又その他の商品については凡べて各配給機關が輸送運搬を自からしなければならない。亦包裝用容器は原則として荷送人へ返送されることになつているが今日ではその四〇%は實行されておらず、且つ荷受人も規格外の容器によつて送られて來ても敢えてクレイムを發しようとしないようである。しかしかかる不適當な容器による、しかも惡路を利用しての輸送が商品の損耗を著るしく大ならしめていることは見逃せない。

最後に右の配給費構成の表の中には見られないが資本主義配給との比較の上から廣告の問題をとり上げる必要がある。此の

場合生産と消費が豫め決定されている計畫經濟の下において廣告が如何なる意味をもちうるかと言う疑問が生ずるが、此の疑問に對しては倉糧産業執行委員會の聲明をもつて答えさせるのが適當である。卽ち「食糧産業は廣告――特にソヴイエット約廣告を必要とする。勿論それは資本主義的廣告でもなければ詐欺的廣告でもない。又悪質の財貨を消費者につかまさんがための廣告でもない。……吾々はすぐれたソヴイエット的廣告を、卽ち良き生産物を告げ、その商品に對する民衆の好みを育て上げその配給に役立つような廣告を導入しなければならない」。ここでソヴイエットの廣告では民衆教育の側面が著るしく强調せられていることが知られる。勿論廣告一般に消費者教育の側面のあることは否みえない。がしかしその相違は販賣者の利害に支えられて個人に賣る商品の標準化を行わんとするか或るいは又ソヴイエットにおける如く消費者個人の欲望を超えた合理性を政府の意志の中に見出し、政府の勸める少數の財貨に民衆の嗜好を誘導し以つて商品の標準化をはからんとするかの相違である。此の觀點からするならば「ソヴイエットの廣告は高い道德的水準にある」ものと言えよう。

ソヴイエット當局が誇らしげに發表せる配給費に關する資料もこれを仔細に檢討するとき必らずしもそれは配給能率の高さを示すものとして受取り難いことは今や明らかである。一九三〇年代の初期に黨によつて要求せられた配給改善の諸點はそのまま一九三七年におけるスタハノフ運動の課題であつたし、又今日においてもそれがソヴイエット商業の課題であることには變わりがない。かく問題の解決が殆んど遲々として進まないのは需要が著るしく供給を上廻り配給機關は絶えず財貨の不足に惱み「極めて簡單に滿足する顧客に販賣するに際しても何等の工夫と創意とを要しない」と言う事情が大きく作用しているのではなかろうか。一層根本的には消費財生産と生産財生産とのアンバランスが消費者需者を供給力に比して著るしく强める原因として又及んでは配給の非能率を結果する原因として指摘されねばなるまい。資本主義社會における配給の使命は實に生活水準の向上にあるとせられているが果してソヴイエットの如き計畫經濟の下において特に消費財生産が質においても量においても著るしく低くおさえられている今日の段階においてかかる期待をソヴイエットの配給に寄せうるであろうか。

（片岡一郎）